

PFC-FD™療法

当院の整形外科では、現在の外来治療では満足できる治療効果が得られていない患者さんに、バイオセラピー（[PFC-FD™療法](#)）を導入することができます。詳しい説明に関しては[リンク](#)をご覧ください。

患者さんご自身から採取した血液から血小板由来の成長因子（血小板が傷を治す際に放出する因子）を抽出し、患部に注入することで、人体がもともと持つ“抗炎症作用”や“鎮痛作用”を高めることで、継続的な効果を期待する完全“日帰り治療”です。

- ✓ 慢性的な関節や筋肉の痛みにお悩んでおられる方
- ✓ 繰り返し関節に水がたまる方
- ✓ ヒアルロン酸を繰り返し関節内に注射されている方
- ✓ メスを体に入れる手術には抵抗のある方
- ✓ 治療のために仕事を休めない方
- ✓ スポーツへの早期復帰のためにできるだけ早く炎症を引かせたい方

ゴルフのタイガー・ウッズ選手や、野球では大谷翔平選手が怪我の改善に活用したことで話題になった再生医療「PRP（多血小板血漿）療法」がありますが、PFC-FD™療法はそのPRP療法を応用した技術になります。現在ではさまざまな関節症や、関節周囲の人体や軟部組織の治療への活用が広がっています。

※「PFC-FD」はセルソース株式会社が Platelet-Derived Factor Concentrate Freeze Dry という造語の頭文字から名付けました。PFC-FD™療法はセルソース社の提供する商標です。

診療の流れ

1. 整形外科の通常診療を受けていただきます。（保険診療）

整形外科による問診と徒手検査、レントゲンやMRI検査などを含めた診療を行い、バイオセラピーの適応となるかどうかの診断を行います。場合によっては複数回受診いただくことがあります。

2. 医師によるインフォームドコンセントを行います。

治療方法のメリットとデメリットについて文書を用いて詳細に説明します。

3. 採血のために受診をしていただきます。（自費診療）

この日は採血検査室で通常の採血を行います。

4. 採血から3週間以降経過した外来予約日に患部への注入を受けていただきます。

ご自身の血液から抽出した製剤を患部へ注入します。 （自費診療）

5. 治療後経過観察（保険診療）

注入後に整形外科外来で経過観察を行い、治療効果について確認します。

もしも治療効果に納得ができない場合でも、その後に保険診療で実施可能な治療として多くの選択肢がありますのでご安心ください。ただし、自費診療分のご返金はいかなる場合もできません。

バイオセラピーのメリット

・高い安全性

ご自身の血液から製造されるため、他の薬物や他人の組織を用いた治療と比較して拒否反応や感染症のリスク、その他の副作用が少ない治療です。

・簡便で低侵襲な施術

外来診療で完結します。手術・入院はなく、日帰りの外来通院での治療です。

デメリット

・効果のばらつき

一人一人の血小板に含まれる成長因子の働きを活用した治療です。そのため一般的な薬とことなり、効果にはばらつきがあります。個人の血小板由来の成長因子の働きによって効果が変わるので、あまり働きがよくない場合には効果が薄かったり、逆に働きが強い方の場合はより効果が出るといったことが想定されます。

・未発見のリスク

ご自身の血液を利用した治療法であり、拒否反応やアレルギーのリスクは非常に少ないと考えられ、深刻な有害事象の報告はありません。しかし、新しい治療法であることから今後新たなリスクが発見される可能性もあります。

診療費について

自費診療で、保険適応はありません。また、先進医療にも該当しません。ただし、バイオセラピーのための採血日・注入日以外の診療日は、通常健康保険が適応されます。バイオセラピー終了後に、さらなる治療効果を求めて他の一般的な投薬や手術療法、理学療法などの治療法を希望される場合に関しても、健康保険の適応で治療を受けることができます。

なお、この自費診療により期待した効果が得られなかった場合に関しても、返金はできかねます。

	費用（税込）
診察・採血・血液検査代	16,500円
注入代	154,000円